

若手研究人材育成への取り組み

～未来の学術発展にむけて我々が先導すべきこと～

オーガナイザー： 京都大学次世代研究創成ユニット 山口陽子



セッション趣旨

国の発展は、未来への先導者になる若手リーダーの育成にかかっている。ところが学術研究や研究開発の分野における日本の現状として、若手研究者の多くは任期付ポスト間の異動を繰り返すなど不安定な雇用環境にあり、研究活動に専念し優れた研究成果を上げながら将来成長していくには困難な状況となっている。本セッションでは、MEXTやJSTが展開する「テニュアトラック普及・定着事業」や「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」の採択を受け、若手研究者育成を主体的に行っている以下の大学機関の取り組み・工夫を紹介したうえで、若手研究者をターゲットとした場合にどのようなリサーチ・アドミニストレーションが重要となるのかを議論する。

セッションの構成

- 10:50～10:55 セッション趣旨説明
- 10:55～11:10 若手研究者の採用からテニユア職までのシステムとその支援
…… 北海道大学
- 11:10～11:25 若手研究者の能力・キャリア開発 広島大学
…… 広島大学
- 11:25～11:40 PIをめざす若手研究者支援
～成長機会としての育成プログラムの提供～
…… 京都大学
- 11:40～12:20 パネルディスカッション

講演者

米田 純一 北海道大学 創成研究機構 研究人材育成推進室 特任教授
「若手研究者の採用からテニュア職までのシステムとその支援」



北海道大学では平成19年度にテニュアトラック事業を立ち上げ、全学統一規格での「育成型テニュアトラック制度」の普及・定着を推進してきた。本発表の前半では、本学のテニュアトラック制度の4つの特徴（1. 広く開かれた採用（国際公募、二段階選抜）、2. 人事制度（テニュアポスト担保、審査）、3. リーダー育成プログラム、4. 研究環境、研究支援）の概要を紹介する。後半では、テニュアトラック制度で採用された若手研究者や関係者の声を紹介しながら若手研究者支援の在り方について考察する。

三須 敏幸 広島大学 グローバルキャリアデザインセンター 教授
「若手研究者の能力・キャリア開発」



広島大学が代表機関として推進しているコンソーシアム事業「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」では、若手研究者向けの能力養成やキャリア開発に係る取り組みを実施している。本事業の概要を紹介するとともに、特に研究キャリアの初期段階にある若手研究者に対する能力開発やネットワーク構築を戦略的にサポートし、必要なリソースと情報の共有を図るための枠組みについて述べる。また、リサーチャー・デベロップメントの観点から見えてきたリサーチ・アドミニストレーターの可能性と役割についても考える。

小川 正 京都大学 次世代研究創成ユニット 特任教授



「PIをめざす若手研究者支援 ～成長機会としての育成プログラムの提供～」

京都大学が代表機関となりH26年度より「京阪神次世代グローバル研究リーダー育成コンソーシアム」事業をすすめ、将来PIをめざす優秀な若手研究者の研究力強化・キャリアアップを目指し各種プログラムを構築してきた。そのプログラム内容の紹介ならびに、プログラム実施プロセスにおいてURAが果たしている役割について紹介する。

研究キャリア初期は研究人生の礎



学部生

院生

ポスドク

助教

講師

准教授

教授

“少年老いやすく学なりがたし”

若手研究者が抱える問題



不安定雇用 激しい競争(ポスト不足・研究資金獲得困難)

メンター不在 閉ざされた環境

本セッションで紹介する若手研究人材育成事業

JST・MEXT
若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業 H19~23
テニュアトラック普及・定着事業 H27~27

JST・MEXT
科学技術人材育成の
コンソーシアム構築事業 H26~

広島大学

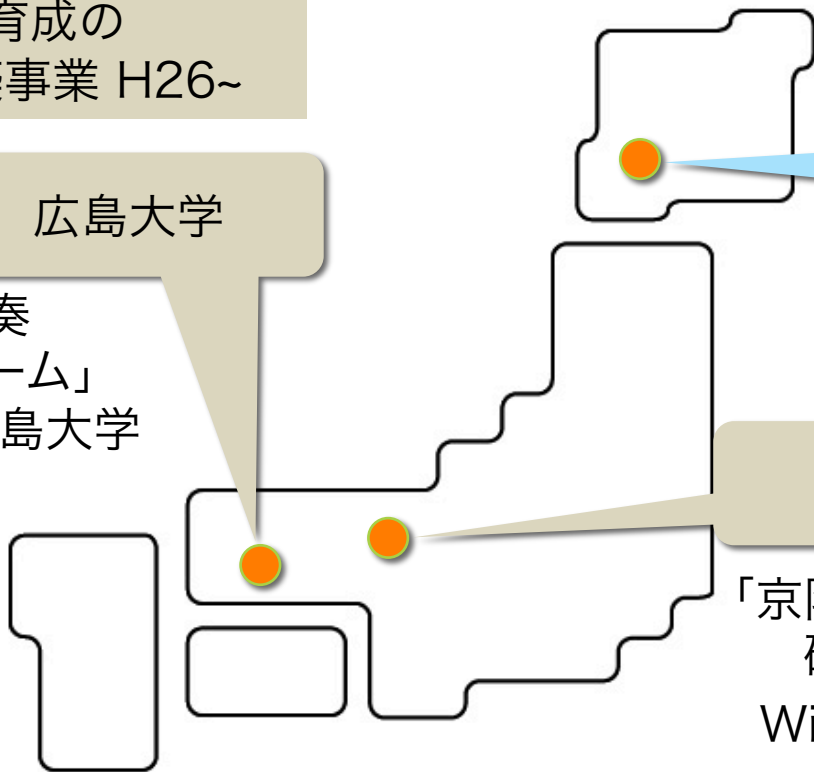
「未来を拓く地方協奏
プラットフォーム」
With 山口大学・徳島大学

北海道大学

「融合科学領域リーダー
育成システム」

京都大学

「京阪神次世代グローバル
研究リーダー育成コンソーシアム」
With 大阪大学・神戸大学



本セッションで紹介する若手研究人材育成の取組み



学部生

院生

ポスドク

助教

講師

准教授

教授

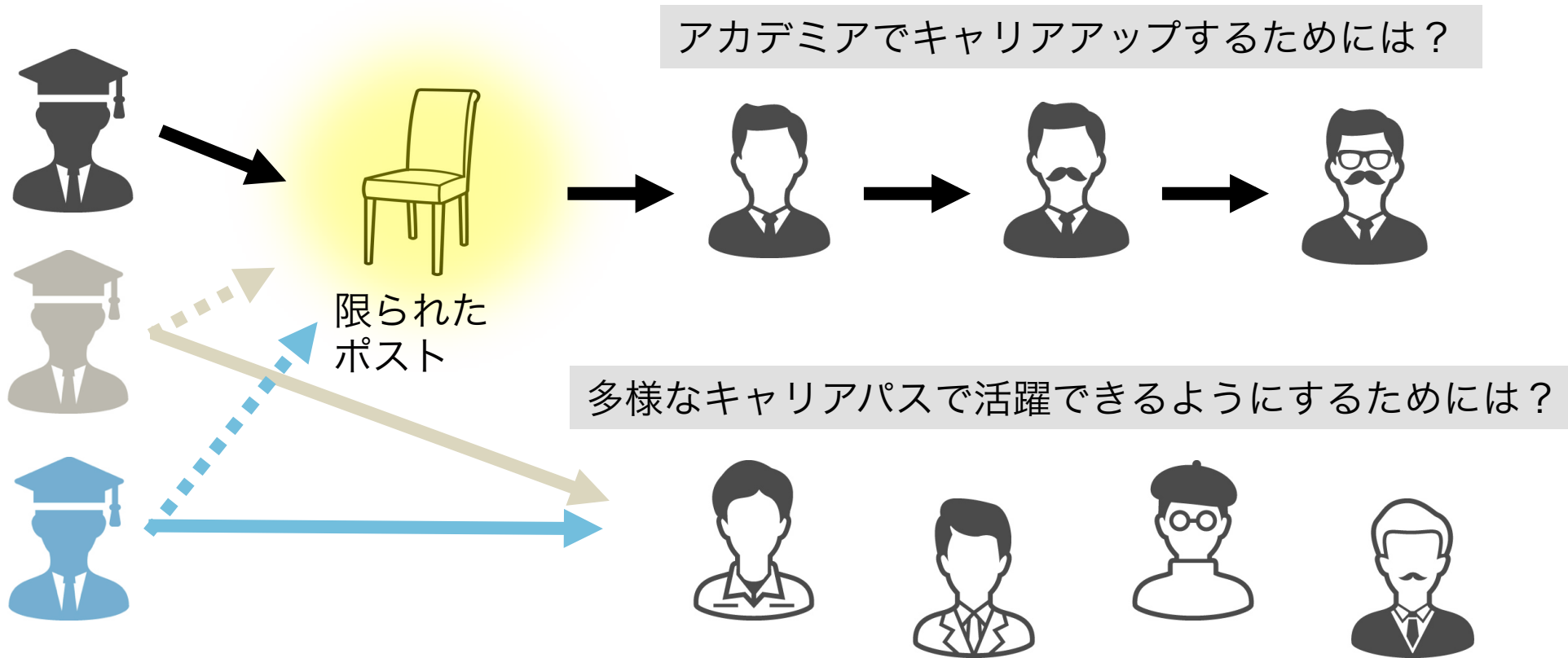
雇用制度整備（北海道大学）

能力・キャリア開発（広島大学）

育成プログラム・伴走型支援提供（京都大学）

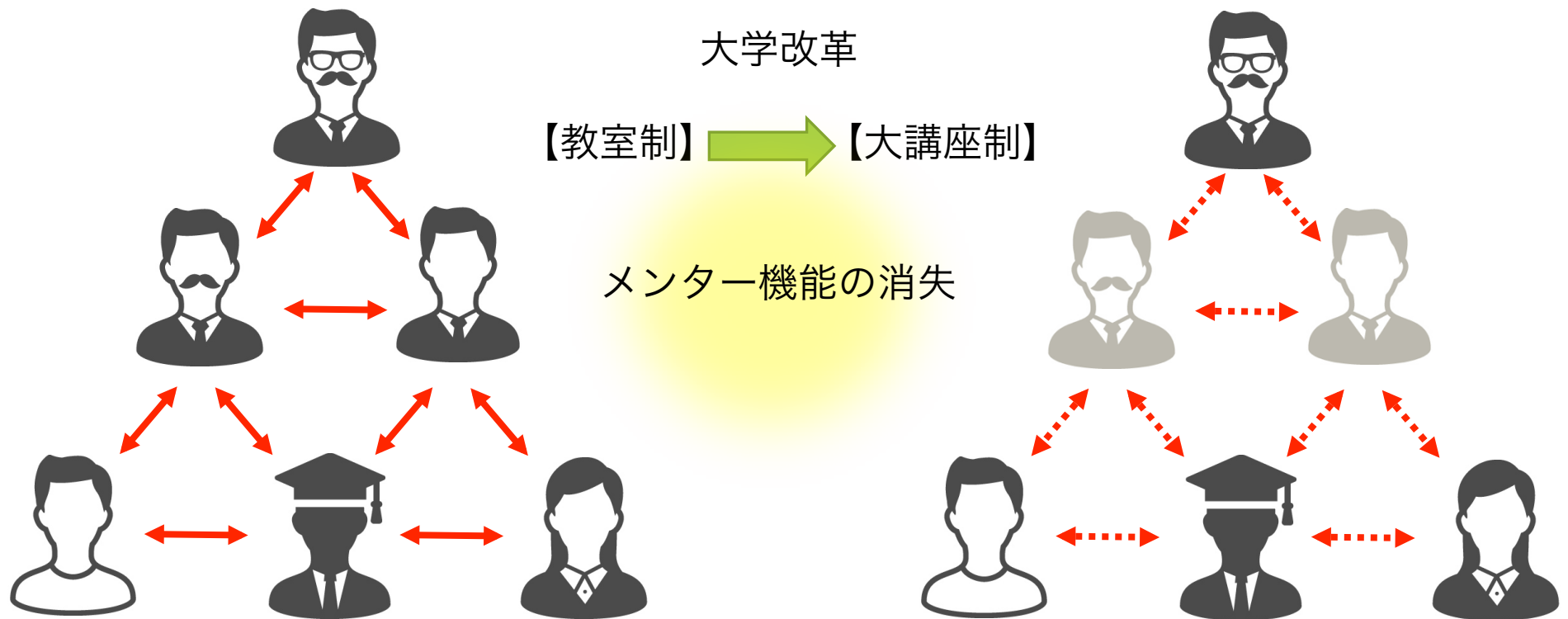
【パネルディスカッション】

若手研究者育成においてURAに求められる役割①



【パネルディスカッション】

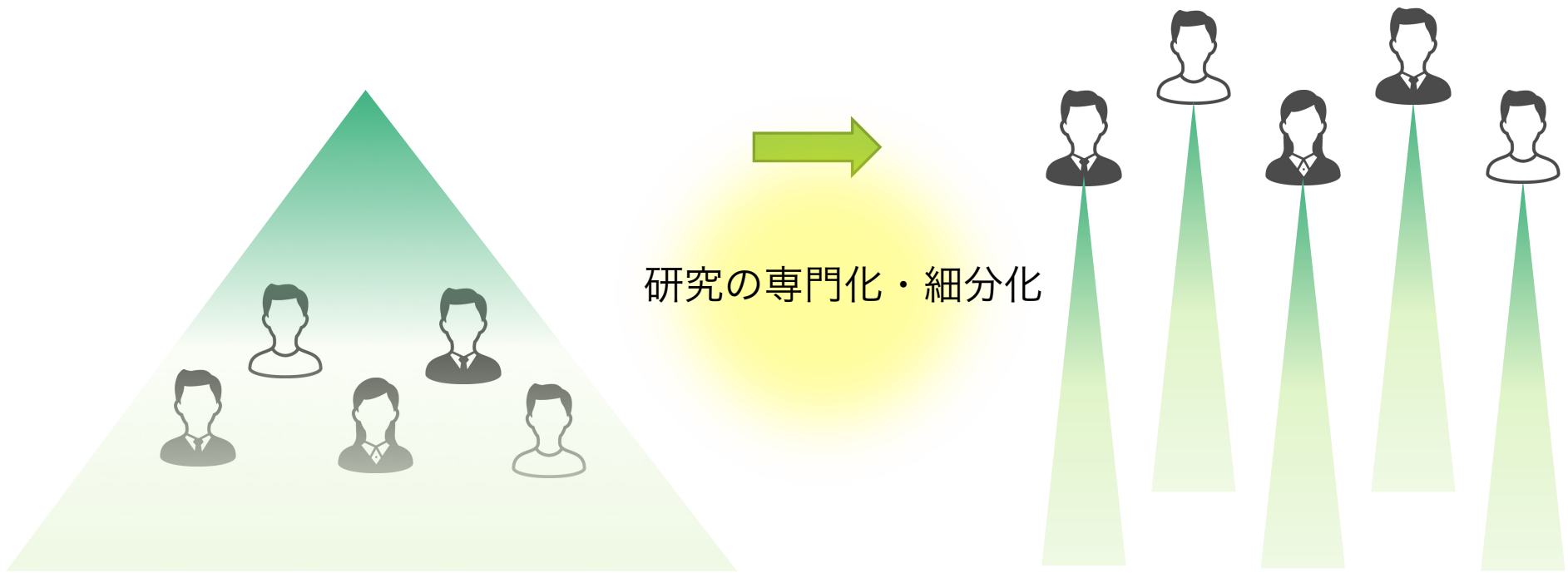
若手研究者育成においてURAに求められる役割②



メンター機能を復活させるためには？

【パネルディスカッション】

若手研究者育成においてURAに求められる役割③



閉ざされた環境に置かれた若手研究者の研究の裾野を広げるためには？



北海道大学

RA協議会第2回年次大会 2016年9月2日

～若手研究人材育成への取り組み・未来の学術発展に向けて我々が先導すべきこと～

北海道大学におけるテニュアトラック事業の取り組み

若手研究者の自立的な研究環境整備促進 (平成19～23年度)

テニュアトラック普及・定着事業 (平成23～27年度)

創成研究機構 研究人材育成推進室 (L-Station)

室長 米田 純一

～若手研究人材育成への取り組み・未来の学術発展に向けて我々が先導すべきこと～

1. 北海道大学テニュアトラック制度の特徴
2. 事業参加部局・若手研究者の声より



教育研究の理念と北大テニュアトラック制度の概要³

教育研究の理念



目指すTT教員像

1. 融合科学領域の研究・教育を推進する大学の次世代リーダーであること
2. 大学が社会に対して果たすべき役割を判断・企画・遂行する次世代リーダーであること

制度の特徴

1. 広く開かれた採用 (国際公募、2段階審査)
2. 人事制度 (テニュアポスト担保、審査)
3. リーダー育成プログラム
4. 研究支援



組織

総長

ステアリングコミティー

人材育成本部

創成研究機構

統括：リーダー育成推進委員会

実施：リーダー育成システム実行委員会

研究人材育成推進室
L-Station

育成プログラムの
立案と実施

事務局

若手研究者の研究支援

研究教育部局：若手人事・育成制度の企画実施



①学内説明 (TT制度、年度計画)

ホスト部局申請 (部局長名)
テニユアポスト担保



②国際公募

L-Stationが一括して実施



③審査 (2段階審査)

[専門性] + [リーダー性]

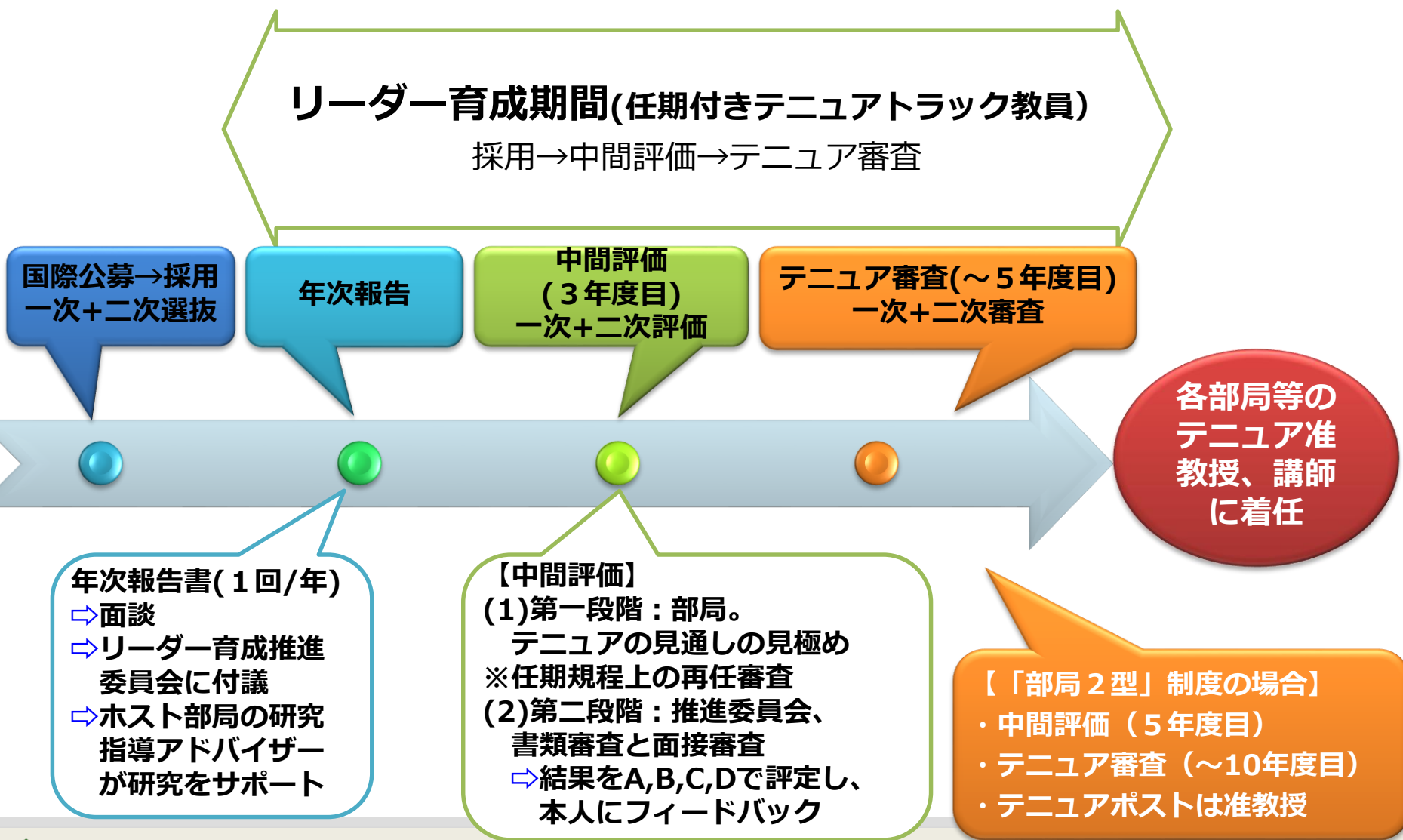
1次審査

各部局の人事委員会

2次審査

リーダー育成推進委員会
<副学長・企業部長クラス>

テニユアトラック制度 (テニユアポスト担保、テニユア審査)



リーダー育成プログラムとテニユア審査の観点

—On the job training を基軸に実体験型—
多彩な体験の場を提供



分類	テニユア審査の観点
研究活動等について	1)融合科学領域に関する研究の新たな取組
	2)学術誌に発表した査読付論文
	3)国内外における研究発表（口頭発表含む）数
	4)研究の国際化・学際化 国際シンポジウムの企画・主催、国際共同研究等に資する活動
教育活動等について	1)全学教育における教育活動
	2)ホスト部局での学部教育、大学院教育における教育活動
	3)R A等の学生指導
	4)（学位審査）・研究指導
リーダーとしてのマネジメント能力	1)研究計画立案と研究体制構築
	2)研究のための積極的な人脈形成
	3)積極的なアウトリーチ活動・広報活動
	4)各種シンポジウム等の企画・推進
	5)大学運営・企画への積極的な分析・提言
	6)研究費の獲得状況



特徴4： 研究支援、研究環境（～H27年度）

	総合型	部局型
研究スペース	創成研究機構に 研究スペースを提供	所属部局に 研究スペースを提供
アドバイザー	任命	任命
研究費（初～2年度）	最大1500万円	最大1500万円
研究費（3年度以降）	400万円	0
研究支援	L-Station	部局事務・L-Station
その他	WEBサイト開設支援、情報提供など	

ここまでのまとめ

制度の特徴（全学統一のシステム）

1. 広く開かれた採用
 - ① テニユアポスト担保
 - ② L-Station一括国際公募
 - ③ 二段階審査
2. 人事制度（中間評価、テニユア審査）
 - ① 中間評価、テニユア審査も二段階
 - ② 中間評価は重要なフィードバックポイント
3. リーダー育成プログラム
OJTでマネジメント力向上
4. 研究支援
アドバイザー、研究費・・・



若手研究者(テニュアトラック教員)の声

- ソフト・ハード両面の支援でスタートアップがスムーズ
 - アドバイザーやL-Station支援
 - 研究費、研究スペース、研究設備(オープンファシリティ等)
- テニュアトラック教員間の交流
 - 異分野、他部局の同世代の研究者との交流
 - 分野横断型共同研究
- テニュアポスト担保の安心感

(ご参考)

・～テニュアトラック教員期間を振り返って～ OB・OGより

<http://tenure-track.cris.hokudai.ac.jp/researcher/>

・テニュアトラック教員座談会

<http://tenure-track.cris.hokudai.ac.jp/talk/>

・テニュア職着任者より

<http://tenure-track.cris.hokudai.ac.jp/alumnus/>

2016. 9. 2

未来を拓く
地方協奏プラットフォーム

未来を拓く地方協奏プラットフォームにおける 若手研究者の能力・キャリア開発

広島大学グローバルキャリアデザインセンター

三須 敏幸



未来を拓く地方協奏プラットフォーム

文部科学省 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)の取組み

広島大学が代表機関、山口大学及び徳島大学が共同実施機関となり、主に中国四国地方を中心とした多くの国公立大学、企業、公的機関が連携し、若手研究者に対するキャリア段階に応じた支援をシームレスに行う産学官コンソーシアム事業。

大学

広島大学、山口大学、徳島大学

島根大学、鳥取大学、岡山大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学
県立広島大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学

企業

株式会社あじかん、株式会社アビー、EYアドバイザリー株式会社、大塚製薬株式会社
株式会社計測リサーチコンサルタント、株式会社サタケ、JFEスチール株式会社
株式会社ジェイ・エム・エス、株式会社ジェーイーエル、中外テクノス株式会社
中国電力株式会社エネルギー総合研究所、帝人ナカシマメディカル株式会社、株式会社テムザック
東ソー株式会社、株式会社東洋高圧、戸田工業株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社日本製鋼所広島製作所、日本ハム株式会社中央研究所、フマキラー株式会社
富士通株式会社中国支社、マツダ株式会社、三菱重工株式会社広島製作所
三菱レイヨン株式会社大竹研究所、メドエルジャパン株式会社、株式会社ワコムアイティ、他1社

公的機関

広島県、国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター／四国センター
国立研究開発法人酒類総合研究所、地方独立行政法人山口県産業技術センター
公益財団法人くれ産業振興センター、中国経済連合会、一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会

海外

Vitae(イギリス)

平成28年4月現在、計48機関



未来を拓く地方協奏プラットフォーム

次世代研究者育成プログラム

イノベーション創出人材の 実践的養成・活用プログラム

実施対象者
(人文社会系、理工農医療系)

博士課程後期(D)
若手研究員(PD)

- ・研究力・企画力の養成
トランスファラブルスキル養成講座
- ・長期インターンシップ派遣
- ・シーズ・ニーズの出会いの場の提供
未来博士3分間コンペティション
若手研究者シーズ発表会
コンソーシアム人材セミナー
- ・マッチング支援

テニュアトラック導入による 若手研究者の自立・流動促進 プログラム

キャリアパス

大学教員

公的研究機関研究員

企業の研究員

- ・キャリアオプションの拡大
- ・ネットワークの構築
- ・知の共有
- ・共同研究の活性化
→ クロスアポイントメント
→ ラボローテーション
→ メンター及び研究支援者の配置

博士人材の、適材適所な就職を
可能とするシステムを構築

×

優秀なイノベーション創出人材
を地方で育成

＝地方の競争力強化

→ 若手研究人材が中四国から日本の未来を拓く



イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

研究力・企画力の養成

- 各機関の資源の相補的・相互的な活用
- トランスファラブルスキル養成講座（英国Vitae等と連携）の展開



スキル指標と対応させながら、養成科目を体系化

- スキルの自己評価・管理システムの開発・運用

長期インターンシップ派遣（2ヶ月以上）

- 社会の多様な場での活躍促進（企業や社会の課題解決へ）

シーズ・ニーズの出会いの場の提供

- 人材・研究シーズ・ニーズの情報共有・検索支援
- 大学・企業間での分野/文理融合による対話型ワークショップ
- スキル開発・ネットワーク構築・理解増進関連イベントの開催
（人材セミナー、シーズ発表会、ワークショップ、3分間コンペなど）

マッチング支援

- 長期インターンシップ、就職、共同研究、クロスアポイントメント 等



英国Vitaeとの共同ワークショップの開催

http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/event/vitae_hiraku_2015/

■ “The effective collaborative researcher”

2016年3月10日



対象：博士課程学生・ポスドク等若手研究者

＜参加者の意見＞

- ・研究に必要なスキルを再認識できた。
- ・自分の能力を整理・類型化できた。
- ・分野の異なる同世代研究者と交流できた。

■ “Preparing for academic leadership”

2016年3月12日



対象：テニュアトラック教員

＜参加者の意見＞

- ・I recognized what is lack of my ability as a leader.
- ・It was very useful to talk with other people about my research and action plan.



HIRAKU長期インターンシップ

http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/younger_internship/

派遣対象:

コンソーシアムに所属する
博士課程後期学生
ポスドク等任期付き研究者
(博士課程修了後5年程度まで)

派遣人数:

コンソーシアム全体で年間18名

派遣先:

民間企業(特許事務所含む)、
博物館、公的研究機関、
国際機関、非営利団体 など

◎発表会の実施:

成果報告会、HIRAKU長期インターンシップ チャレンジ・カフェ



コンソーシアム人材セミナー (広島大学、山口大学、徳島大学)

http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/event/seminar_hr_2016/



企業等の関係者を講師として招聘。企業での活動内容、求める人材の資質・能力などについて紹介するセミナーをほぼ毎月開催。



課題提案型ワークショップ

(第1回「ビッグデータの利活用について考える」H28.6.2)

http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/event/ws_201606_2/

HIRAKU 主催：科学技術人材育成のコンソーシアムの構築推進（次世代研究者養成プログラム）未来を拓く地方協奏プラットフォーム

課題提案型ワークショップ 「ビッグデータの利活用について考える」

課題提案型のニーズ・シーズマッチングの第一歩として、ビッグデータの利活用に向けた検討会を行います。
近年、情報化社会の中で、大量のデータが蓄積されその有効活用を取り巻く環境も大きく変換しています。
ビッグデータの利活用は、生活やサービスの向上、研究開発の促進、イノベーションの創出に大きく貢献することが期待されています。
ワークショップでは、企業・行政からのテーマ課題に基づき分科会を設け、議論等を通じて具体的な課題の解決に向けた議論を行います。
また、同様のプロセスを通じて、次世代を担うインフルエンサー人材の育成を図ります。
幅広い分野の若手研究者（大学院生以上）・大学教員・専門家の皆様、企業・行政関係の皆様のご参加をお待ちしています！

参加予定企業・行政

- 株式会社イズミ
- 株式会社アピックス
- 広島県品工業株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社広島産研株式会社
- 広島県
- 広島市

プログラム

- 13:00 開会挨拶
- 13:05 説明による説明
- 13:20 若手研究者シーズ発表(10分)
- 14:20 分科会
- 16:20 全体での発表・まとめ
- 17:20 講評
- 17:30 アンケート作成

参加費 無料

お申し込み方法 申込締切 5/26
ホームページよりお申し込みください。
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/form>

お問い合わせ
広島大学ローカルキャリアデザインセンター（若手研究者養成推進）
083-824-4271 ws@wakaipmail@office.hiroshima-u.ac.jp
083-824-4343 <http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakaiportal/>

主催：広島大学、広島大学女性研究活動委員会 協力：広島大学 統計科学研究拠点

企業・行政の実際の課題・ニーズ提案に基づき、多様な若手研究者や関係者が集い、解決に向けた議論を行う。

課題提案機関 5企業、2自治体



<参加者の意見>

- ・多分野の方や立場の方と議論が出来いい刺激になりました。
- ・具体的な問題点を特定していろいろな分野の視点から議論ができることが良かったと思います。

お問い合わせ

083-824-4271 ws@wakaipmail@office.hiroshima-u.ac.jp
083-824-4343 <http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakaiportal/>

主催：広島大学、広島大学女性研究活動委員会 協力：広島大学 統計科学研究拠点

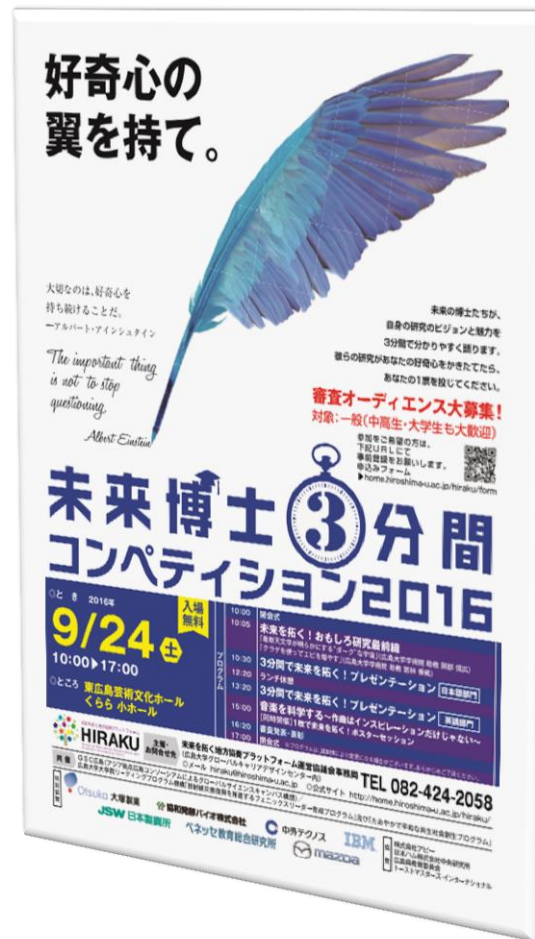


未来博士3分間コンペティション2016

http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/event/competition_2016/

開催日: 2016年 9月 24日(土) 場所: 東広島芸術文化ホール くらら

博士課程学生が自身の研究の**ビジョン**
と**魅力**を中高生を含む社会一般に3分間
で分かりやすく伝えるスピーチ大会



未来を拓く地方協奏プラットフォーム

特別協賛

協賛



日本ハム株式会社中央研究所、株式会社アビー、
広島県教育委員会、トーストマスターズインターナショナル



「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」 若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/>



あつまる まじわる つながる

HIRAKU-PF

若手研究者ポートフォリオ
(HIRAKU-PF)
2016年3月25日
運用開始しました!

- **HIRAKU-PFに参画する大学、公的機関、民間企業等が、若手研究者のキャリア／能力開発に役立つ各種情報を発信・共有。**
例) インターンシップ・求人情報、セミナー等
情報、支援制度情報、能力自己診断 など
- **若手研究者が自身の研究活動などをアピールし、異分野の若手研究者との繋がりや民間企業等と広く交わる機会を提供。**



未来を拓く地方協奏プラットフォーム




未来を拓く地方協奏プラットフォーム

HIRAKU

Home for Innovative Researchers and
Academic Knowledge Users

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/>





PIをめざす若手研究者の育成 ～成長機会としての育成プログラムの提供～



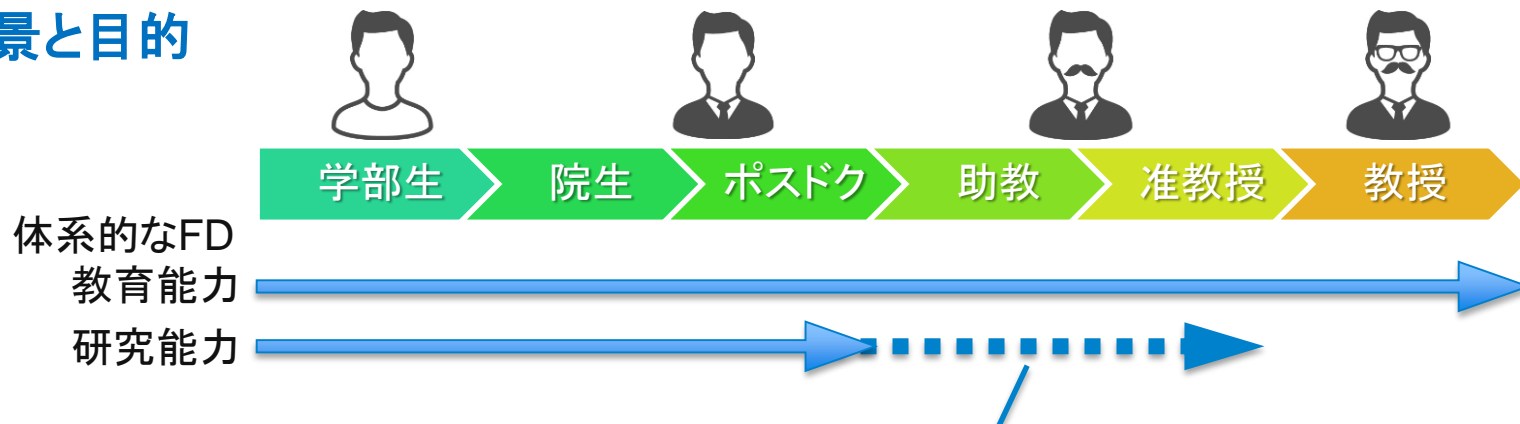
K-CONNEX

京阪神次世代グローバル研究リーダー育成コンソーシアム
The **Keihanshin CON**sortium for Fostering the **NEX**t Generation
of Global Leaders in Research (**K-CONNEX**)

K-CONNEXとは

文科省 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
次世代研究者育成プログラム (H26年選定)

■ 背景と目的



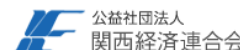
次代を牽引するP I 研究者の輩出をめざし、若手研究者(助教クラス)の成長機会を提供する「体系的な仕組み」を構築する

■ 参加機関

実施機関: 京都大学、大阪大学、神戸大学



連携機関: 産業技術総合研究所
産学協働イノベーション人材育成協議会
関西経済連合会



K-CONNEXの具体的な目標

■ 若手研究者(助教クラス)の成長機会を提供する仕組みの構築

若手研究者採用、研究環境整備

国際公募、5年間の雇用保証、スタートアップ研究費、自律的研究環境

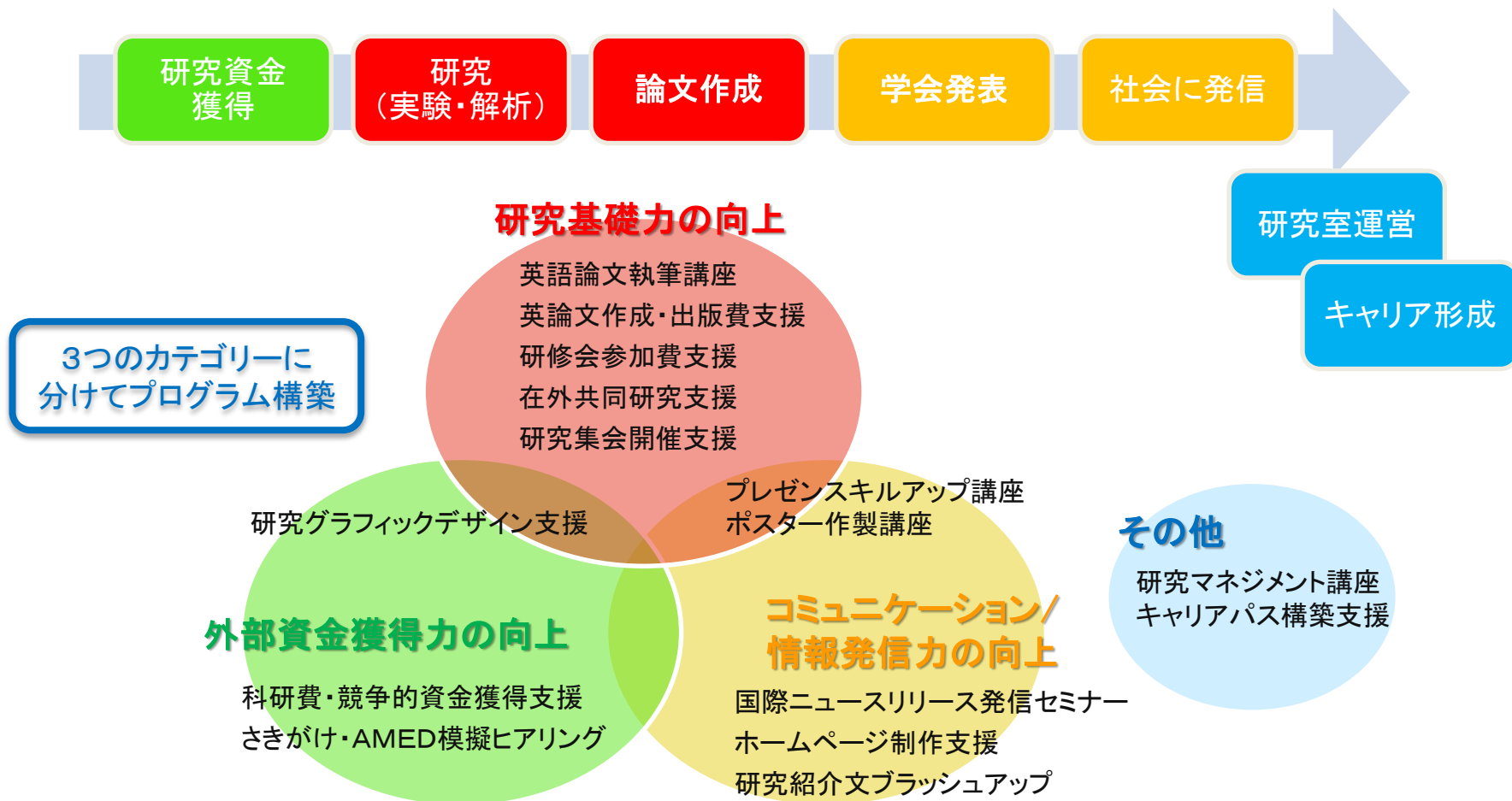
育成・支援プログラム

- ① キャリアアッププログラム(講座・研究支援による能力向上)
- ② 異分野間・産学間の交流プログラム(他研究者からのフィードバックによる能力向上)

研究サポート実施体制

- ③ ポータルによるプログラムの一括管理、専任URAによるサポート体制

さまざまな研究ステップ、キャリアステージに対応できるプログラムを提供
(講座・セミナー以外はオンデマンドでサポート)



■ プログラムの策定方針

- ・ 参加、支援依頼は研究者の任意
- ・ 講座では参加者の領域・レベルを揃え、演習機会(実習、討論)を多く取り入れる
- ・ スキルレベルの知識だけでなく、**キーとなる上位概念・コンセプト**など、伝えたい明確なメッセージを出す



■ 国際ニュースリリース(例: EurekaAlert!) 図作成におけるキーコンセプト

~~論文で使用した図~~

国際ニュースリリース発信セミナー 無料

Science誌を発行するAAAS (アメリカ科学振興協会) 運営の国際的ニュース配信サイト EurekaAlert! を中心とした国際ニュースの発信方法を学ぶ。

日時 2016年6月10日
16:00-17:00

場所 吉田キャンパス学術研究支援棟1階 セミナー室1

対象 京都大学の方 & K-CONNEX に参加する研究者

内容

- 国際ニュースリリースの動向と最近の動向
講師: 国際広報 室長 佐藤 隆
- ニュースリリースの書き方、目録作成
講師: 国際広報 室長 佐藤 隆
- ニュースリリースの発信方法
講師: 国際広報 室長 佐藤 隆

申込 K-CONNEX ホームページから参加を申し込みいただけます
<http://k-connex.kyoto-u.ac.jp>

お問い合わせ 次世代研究支援ユニット (担当: 小野)
office@k-connex.kyoto-u.ac.jp

EurekaAlert! The Global Source for Science News

HOME NEWS MULTIMEDIA MEETINGS PORTALS ABOUT

TRENDING SCIENCE NEWS

- A new way to display the 3-D structure of molecules**
DOE/LAWRENCE BERKELEY NATIONAL LABORATORY
- 'I miss you so much': How Twitter is broadening the conversation on death and mourning**
UNIVERSITY OF WASHINGTON
- Homosexual termite regicide**
KYOTO UNIVERSITY
- Mussel flexing: Bivalve save drought-stricken marshes, research finds**
UNIVERSITY OF FLORIDA

研究領域が一目でわかり、目に飛び込んでくる「アイキャッチ画像」

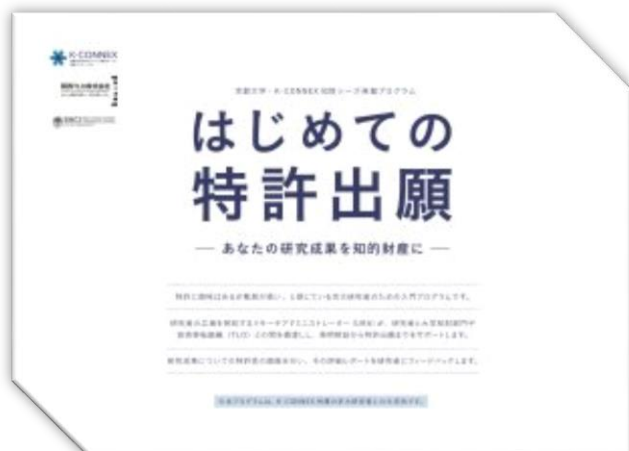


文字、数字を含まない

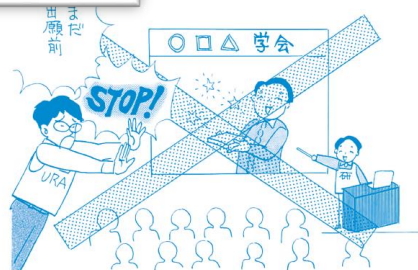
ポスター会場 P-45において紹介

■ 知財に関する手続き（イラストによる興味誘発と理解促進）

発明相談から特許出願までのURA支援



意いただきたいこと～



特許出願する際、その時点で研究成果がすでに
 公知である場合（＝公の場ですでに発表した
 研究成果の場合）、「新規性なし」と見なされ
 権利化することができなくなってしまいます。
**すなわち、権利化をめざす研究成果については、論文発表、学会発表など（※1）の前に、
 出願を済ませておくことが必要です。**出願準備には3～4ヶ月ほど要します（※2）ので、
 研究成果ができた時点で早めに発明相談に着手

することが理想です。あるいはもっと遡って、
 アイデア段階や研究進行中の段階から、戦略的
 にご相談いただいても構いません。
 なお、論文発表の救済策として、新規性喪失の
 例外規定（特許法第30条）がありますが、こ
 れを安易に頼ることは危険（※3）ですので、
 特許出願の際には用意周到に成果発表の段取り
 を組むことが肝心です。

3 K-CONNEX はじめての特許出願
発明相談から特許出願までのプロセス

STEP2 発明提案書提出

リサーチアドミニストレーターは、発明提案書の準備
 を行い、研究者が内容を確認したうえで産官学連携
 本部に提出します。発明提案書の様式は、下記ウェブ
 サイト（京大大学内限定）からご覧になれます。
https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/?page_id=140

STEP3 特許性調査

発明提案書を受理した産官学連携本部は、内容確
 認のため発明者ヒアリングを行います。それと同時
 に関西 TLO は、その研究成果についての特許性（新
 規性、進歩性、産業利用の可能性）を調査します。
 調査内容は、先行技術調査（過去の類似研究や関
 連特許の調査）や、市場性価値調査（研究成果を
 利用できる産業の調査）を含み、関西 TLO がその
 評価レポートを準備します（※2）。

（※2）研究者は、学術の世界では
 知ることのない「産業界から見た
 自分の研究の価値」について知
 ることができる

関西 TLO による市場性価値調査や先行技術
 調査が盛り込まれた評価レポートは、普段の
 研究活動のみでは得る機会がない情報です。
 この評価レポートは知財部門に提出され、発
 明評価委員会の審議の際に添読されるととも
 に、研究者のもとにもフィードバックされます。

発明の出願から帰属の決定までは、通常3～4週間、更に
 出願までは、帰属の決定から通常1ヶ月程度はかかります。

（※3）特許法第30条（新規性喪失の例外規定
 の適用）による救済措置、の説明

わが国の特許制度においては、特許出願より前に公開さ
 れた発明は原則として特許を受けることはできません。し
 かし、特許法第30条（新規性喪失の例外規定の適用）に
 よる救済措置により、**公開から6ヶ月以内の出願**であ
 りば適用されます。ただし、海外への出願を予定してい
 る場合には、各国の新規性喪失の例外規定にも留意する必
 要があります。各国の国内法令によっては、自らの公開に
 より、その国において特許を受けることができなくなる可
 能性もありますので御注意ください（欧州、中国等では基
 本的に例外規定なし）。

**ポスター会場
 P-15において紹介**

■ 異分野・産業界研究者からのフィードバックを活用する



- ・ 他領域・産業界視点からの評価・コメント → PIに必要な「俯瞰的視野」の獲得
- ・ 分野・産学を超えた活発な研究交流 → 専門領域を超えた研究者コミュニティの形成

■ 大学と企業の双方にメリットがある産学間交流プログラム(ファーストコンタクト)

分かり易く、魅力的な
研究者紹介パンフレット



分かりやすく紹介

招待講演者として
最新研究の紹介

Seeds

基礎的研究からのシーズ発掘

分かりやすさ、
面白さを評価

大学
研究者

大学

企業

企業
研究者

社会ニーズの認識

Needs

プレゼンテーションに
対する評価

Pick Up!

大学研究者のメリット

招待講演者としてセミナー発表

企業研究者からの評価・
コメントのフィードバック

企業研究所の見学(オプション)

企業研究者のメリット

「関心がある」研究分野から
講演者を選択

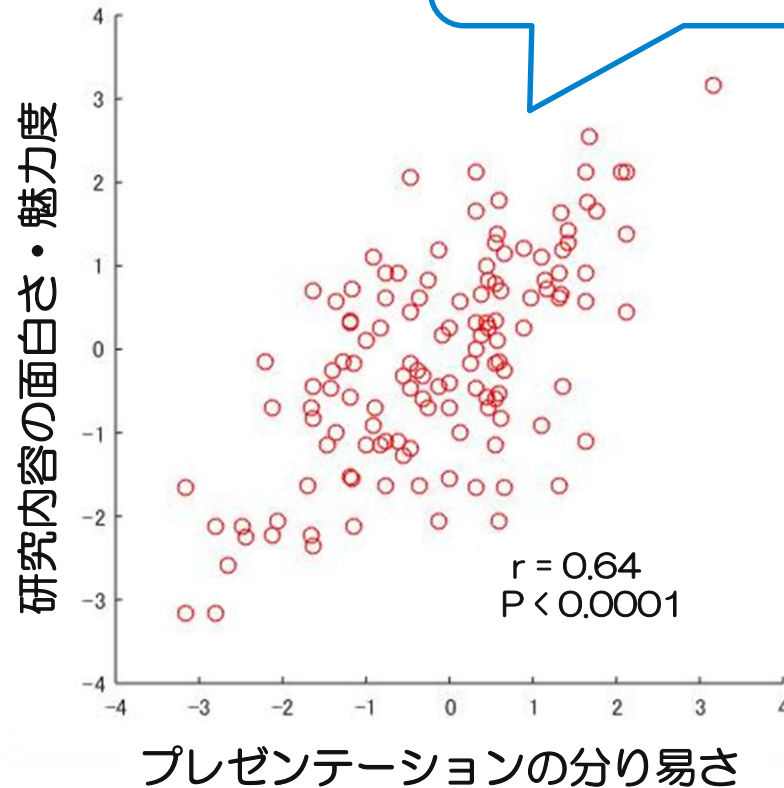
アカデミアにおける
最新研究情報にアクセス

■ 他者評価のフィードバックは、自身の研究評価向上に役立つ



書面アンケートによって、「研究内容」と「発表スキル」に関する評価をフィードバック

研究内容と発表スキルの
評価には強い相関
(11人の発表者、30人からの評価)



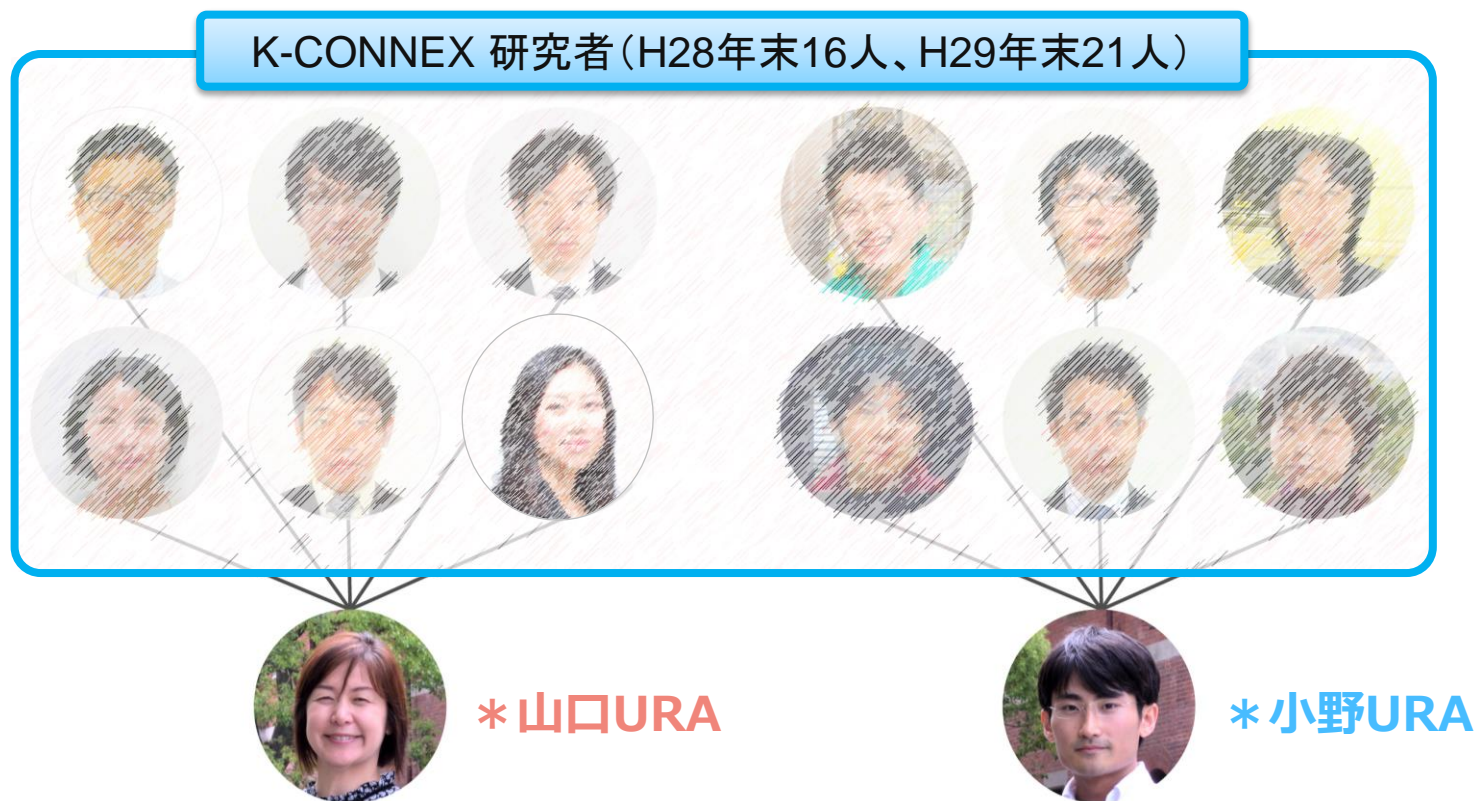
■ Webポータルによる育成・支援プログラムの提供

- ・ 機関・部局を超えた One-Stop サービス
- ・ 全てのプログラムについて情報提供、各プログラムの目的・内容説明

The screenshot displays the K-CONNEX Support Portal interface. On the left is a dark sidebar with navigation links: サポートホーム, お知らせ, キャリアアッププログラム, 産学連携プログラム, 合同ミーティング, and English. The main content area is titled 'キャリアアッププログラム' and includes a sub-header '研究室単独では実施困難な研究推進プログラムを提供し、若手研究者の研究力強化とキャリアアップにつなげます。' Below this is a grid of eight clickable panels with icons and text: '研究費を獲りたい', '研究力を高めたい', '良い論文を書きたい', '魅力的な学会発表をしたい', '社会に発信したい', '研究室をうまく運営したい', '次のポジションを狙いたい', and 'すべてのプログラム'. At the bottom, a list of programs is shown under the heading '表示中のプログラム : すべてのプログラム', including '科研費申請書チェック', '競争的資金獲得支援', '在外研究支援', '共同研究支援', '研究会開催支援', and '研究会参加費支援'.

■ 各研究者に担当URAの配置

- ・ コンソーシアムURAが研究室を現地訪問、研究計画や研究環境を直接確認
- ・ 研究進捗や将来展望も把握したうえで研究サポート



K-CONNEXにおける「次世代研究者育成のための体系的な仕組み」の構築 現状のまとめ

育成・支援プログラム

「キャリアアッププログラム」

様々な要望に応える多彩なプログラム(参加・利用は任意制)
研究室単位では実施困難なプログラム内容

「異分野・産学間の研究者交流プログラム」

将来のPIに必要な俯瞰的視野の醸成
分野・産学を横断した若手研究者コミュニティの形成

助教クラス研究者の
ニーズに合わせる

研究交流のメリットを
明確に伝える

研究サポート実施体制

「ポータルによる育成・支援プログラムの一括管理」

機関・部局を超えた One-stop サービス

「専任URAによる研究サポート体制」

個々の研究者に合わせた伴走型の研究サポート

いつでも、どこでも
アクセス

安心感・信頼感を
与える研究サポート